

## 入庁してから4年間の振り返り

直方支部 直方県土整備事務所 道路維持課維持係 山上巧

私が直方県土整備事務所に配属されてから、3年半が過ぎました。この3年半の中で学んだこと、体験したことを書こうと思います。

### ○直方県土整備事務所について

私が入庁して配属されたのが、ここ、直方県土整備事務所です。私はこれまでの人生で直方に足を運んだことがありませんでした。一番、直方に来たんだ！と感じたのは、やはり方言を聞いた時でしょうか。語尾が「～っちゃ」とか「～き」が、当たり前のように使われているのは印象的でした。そうすると、きっと私自身が話している言葉も、実は標準語ではなくて方言なのかもしれないと感じることがあります。

また、スポーツがとても盛んな事務所でした。野球にサッカー、卓球・バレー・ランニング等々、フルコースで運動が行われていました。私は運動が得意ではないので、運動をやり始めた当初は、ただキツイと感じるだけの日もありました。しかし、いつからか、体を動かすのが楽しいと感じるようになっていました。基本的に仕事の半分は机上の作業であったり、黙々と集中する時間もあったり、昼休みに、わーっと体を解放して運動するのは良い気分転換になります。

### ○業務について

私が入庁して、1年目は都市施設整備課へ配属、2、3年目は交通安全係、そして今、4年目は維持係へ配属されました。やはり係が変わると、似たような業務はあっても新しく覚えることの方が多く、異動したての時期は苦勞しました。それでも、今まで仕事を続けてきて、新しいことに取り組むことは自分の成長にもつながるし、これからこの仕事を続けていく上で無駄な経験などないと思い、苦勞することも必要だと考えています。

また、学生時代に学んできたことを生かせる場面はもちろんありますが、社会に出て新しく学ぶことが山ほどあります。一番社会人になって苦勞しているのは、言葉遣いでしょうか。一人称を「私」と呼ぶのは、慣れるまでしばらく違和感がありました。目上の方に「了解です」はふさわしくないことも覚えました。謝罪の時に「すいません」と何度言いかけたことか。

社会人を3年半過ごした「私」ですが、まだまだ大人な言葉遣いを出来ていないことは「承知しております」、「申し訳ございません」。

○担当した工事について

私が担当して一番苦勞した工事は県道福岡直方線（日交通量約 17,000 台）交差点改良工事でした。交差点内を通行止めにして工事が出来れば問題ないのですが、県道を止めての工事は出来ないので車を通す車線を切り替えながら少しずつ工事を進めていく必要がありました。

近くには営業施設があったり、民家があったりと、渋滞や騒音、振動等により多くの人の方にご迷惑をかけましたが、協力を頂き完成までたどり着くことが出来ました。完成後、今まで渋滞が起きていた道路が、快適な通行をできるようになったのを見たときは今までにない達成感がありました。

○これからについて

今後働いていく中で、どれだけ経験を積み重ねても、間違えることもあれば、誰かを怒らせてしまう状況になることがあると思います。そんな時に、言い訳をしたり、誰かに責任転換したりせず、失敗しても次に生かせるような前向きな姿勢で仕事に取り組もうと思います。

私が担当した交差点改良工事



着工前(Google より)



完成後